

実りの秋の広町の森 収穫祭で賑わう

今年も広町の田んぼや畑で採れたお米や野菜など秋の収穫を祝う広町のお祭り「広町収穫祭」が11月15日（日）に御所が谷入口近くの広場で盛大に開催されました。

広町の現場作業の5つの会のボランティアスタッフをはじめ広町に関わる様々なボランティアの方々が事前の準備を重ね、当日は、広町で採れたお米を使ってのおにぎりやお餅、里芋やこんにゃく芋から作ったこんにゃくなどを使った芋煮鍋、サツマイモをドラム缶のかまどで焼いた石焼芋、おやき、お好み焼き、みそ田楽などが、50円～200円という安価で提供されました。

また、乾燥させたひょうたんの色を塗ってもらうマラカス作りのコーナーにも子ども達は大喜びでした。天候で1日順延したために参加者は昨年より若干少なかったものの、当日はお天気にも恵まれ、秋色に彩られた広町の木々に囲まれて周辺住民の方々や遠方から楽しみに来られた方などがご家族ご夫婦、お友達と広町からの収穫の数々をシートに広げ、芋煮鍋などに何度もお替りをしては秋の一日をゆっくり楽しんでいました。



獨協大学で広町の保全運動について講義

2009年10月28日、獨協大学経済学部総合講座において、当連合会の本郷・安倍両氏が「25年におよぶ市民運動で守った鎌倉広町の森」と題した講義を行いました。

同校の総合講座は、学外から講師を呼び、毎週連続的に開催される講座で、単位が与えられる正課のひとつ。講師は実業界、研究機関、評論家等各界に及び、テーマも多種多ですが、これまで市民運動をテーマにした講義は少なく、学生の皆さん、連合会、何れにとっても良い機会となりました。

当日は約300名の学生が出席し、本郷・安倍両氏は、パワーポイントを用いて①地球環境の今、②鎌倉広町の森とは？、③25年におよぶ保全運動の展開、④広町の森保全運動の主な成功要因、⑤広町の運動が提起した問題 とう内容で講義を進めました。同行した運動史編纂委員の方からは、「居眠りする学生も少なく、若い学生達に緑の保全の重要性と25年間の市民運動の素晴らしさ・その意義がよく伝わったのではないかと」の感想が聞かれました。

環境の世紀に生きる若い世代は、今後、市民としていろいろな形で環境の問題に取り組む必要が出てくることでしょう。広町の25年におよぶ市民運動は、いわば鎌倉市民全体の共有財産ともいえるものであり、運動史を出版した連合会として、これを次世代に伝える活動は今後とも継続していかねばならないと、今回の講義を通して改めてその重要性を認識した次第です。

「広町の森の5つの会」参加者レポート

広町の森は、現在、これまで広町の森の保全に関わってきた4つの市民団体と、鎌倉市が公募した市民をメンバーとする5つの会（広町田んぼの会・広町畑の会・広町自然観察の会・広町森の会・広町散策路の会）が都市林公園としての整備に向けた保全活動を行っております。5つの会には鎌倉の自然を守る連合会を構成する近隣の自治・町内会の会員の方も多く参加しており、連合会としてもその活動を応援しております。
※「広町自然観察の会」のレポートは次号で詳しく紹介します。

広町田んぼの会 昨年11月収穫祭が終わり、稲刈り以来2ヶ月ぶりに田んぼ作業をした。（今年の収量は白米換算でうるち米90キロ、餅米54キロ。合計144キロ。）

来年の田植えに備えて冬のうちに田うないと施肥をする。昨年秋から裁断した藁、干し草、糠などが積んである肥料を田んぼに撒いた後田うないをする。この堆肥の中になんとクワガタの幼虫約10匹、カナブンの幼虫約20匹が土の中にもぐっていた。うまく育ててくれますように。



広町畑の会 いま 大麦と小麦の芽がではじめました。6センチくらいですが来年のグンと冷え込む頃には若緑の穂波がみられ、子供達が麦踏に来て畑も賑わうことでしょう。冬から春先にかけては作物がなにもないので 麦の緑が本当に美しく感じられ、ウォーキングで広町に来た人たちが揃って畑の方を向いてお弁当をひろげます。作業を終えて広場の方へ歩いていたら、そこに来た人たちが一斉にこちらをむいているので、ちょっと恥ずかしかったこともありましたが、今年は1区画多く種をまき、青い

うちにすき込んで肥料にします。ワラ細工には大麦をつかうのがよいそうで、収穫祭のイベントの正月のお飾りの材料がひとつ準備できたわけです。なお、畑の作業日が複雑だったので、改めて毎・日曜日としました。火曜日は変わらず自由参加の日です。

畑の隅にカブトムシのための聖地をつくりました。堆肥置き場に幼虫がたくさん生まれるので、見つけたらそこに移し保護します。夜中にカブトムシになって森にはいってしまうので、姿を見ることができないのが寂しいのですが、葉っぱの下にいると想うだけで優しい気持ちになれますね。

広町散策路の会 収穫祭のおにぎり、お餅、芋煮等の竈に使う薪を森の中から集めて運ぶ仕事を任せられました。屈強な男性が揃って力を発揮したところです。また収穫祭後は森の中の散策路の整備箇所の優先順位を決めるため、コースを回って点検しました。道の拡幅、ロープの設置、ぬかるみの補修など、まだまだ整備必要な箇所がたくさんありました。作業結果を見た散策者からのお礼と感謝のことは一番励みになります。



広町森の会 12月13日は散策路の会と合同で樹木伐採の講習会を行いました。酒井講師から間伐の意義や切り方、安全なやり方などを教わり、体操の後、各自ノコを交代で操作。350キロの木にロープがかかり、定めた方向へ一気に倒れる様は思った以上の迫力でした。毎月第1、第3日曜・9時30分に広場集合ですので皆さん是非ご参加ください！